令和５年７月３日　　No. ５５９

教育目標：つよい子・考える子・助け合う子　　杉並区立大宮小学校

黌宮大

URL http://www.suginami- hool.ed.jp/oomiyashou/　　題字「大宮黌」（おおみやこう）勝 海舟

達成する喜びの積み重ね ⇒ 学びの意欲や習慣

副校長　畠山 宏樹

暑い夏が間近に迫り、大宮小学校は子供達のエネルギーにより活気に溢れております。６月１７日（土）の土曜授業公開は、人数制限を設けない参観としたことで、多くの保護者の皆様に子供達の学習の様子をご覧いただくことができました。保護者の皆様の温かい見守りに感謝申し上げます。ご参観ありがとうございました。

また、公開授業の後には、保護者と担任が一堂に会し、保護者会と学級交流会が開催されました。近年、保護者同士が繋がりをもつ事も大切なのではないか、互いの顔を見合わせて交流を深めたい、との声が挙がっておりました。そのような中、ＰＴＡ本部役員様のご尽力により、学級交流会を開催することができました。交流会の様子を見させていただき、大宮小が大切にしている「人とつながる」を改めて実感しました。保護者の立場で横の繋がりを持ち支え合っていこうと、すすんでお声をかけてくださる方も多く、この地域の心の温かさを感じると共に、大宮小の子供達が持つ明るさや前向きさの元はそこにあるのだな、と感じます。皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございます。

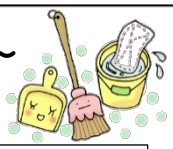
子供達が自らの考えをもち対話的で協働的な学びを実現するために、教師はファシリテーターでなければなりません。ファシリテーターとは、知識や解決策を提示するのではなく、子供達がもつ経験値や知識、感情を尊重し、寄り添い、問いかける役割に立つ人のことを指します。

我々大人は子供が学習面で躓きがある時、すぐに指摘をしてしまうことがあります。その躓きが気になってしまい、すぐに解決方法を提示して、その通りに子供に取り組ませてしまうことも起きうる話です。

大人の指示通り取り組んだ子供の姿と、周囲の力を借りながらも自分で考えて取り組んだ子供の姿、子供の将来を考えた時、後者の姿が望ましいと思います。また、見守る大人としても、自分で達成しようする子供の姿を見ることが真の喜びであると思います。子供の考える姿を待つこと、大人にはそれが求められています。大宮小の子供達は意識調査でも自己肯定感が高く、「自分達で学んでいる」と自信をもって学習活動を行っています。

大宮小では今年度、教師のファシリテーション能力の向上に向けて研究を重ねています。子供達が、Society5.0の社会を生き抜く力を積み重ねさせていく、それが今後の我々大人に課せられた責務と考えています。

～今月の目標～



生活

身の回りをきれいにして
生活をしよう

保健

夏を元気に過ごそう

給食

暑さに負けない
食事をしよう